

下松市郷土資料・文化遺産 デジタルアーカイブ活用ガイド



インターネットで
下松の歴史や文化財を学ぼう！



- ・ 下松市立図書館公式ホームページからアクセス



- ・ 検索ワードからアクセス

下松市 郷土資料

検索



●下松市郷土資料・文化遺産デジタルアーカイブの特徴



下松市／郷土資料・文化遺産デジタルアーカイブ



下松市内の文化財や歴史資料、昔の写真等をデジタル化しました。現在の下松が形づくられるまでの先人達の営み、文化遺産をご覧ください。

ほんぶんえつらん 本文閲覧

見たい本がある場合は、「本文閲覧」にて、本を選んでください。



索引が付いていない
本も、語句検索できるから便利だね。

いき ちいき れきし まちに息づく地域の歴史

花岡や宮ノ洲など、特定のテーマについて知りたい場合は、「まちに息づく地域の歴史」から入ってください。関連資料がテーマごとにまとまっています。

いせき ぶんかざい れきしりょう 遺跡や文化財と歴史資料

古墳や遺跡、文化財などを調べたい場合は、「遺跡や文化財と歴史資料」から入ってください。高精細画像なので拡大してもきれいに見ることができます。

しょうさいけんさく 詳細検索

キーワードから調べたい場合は、「詳細検索」をクリック。語句を入力して、検索を押してください。



しゃしん くだまつし 写真で見る下松市

下松の古写真が見たい場合は、「写真で見る下松市」から入ってください。懐かしい風景がよみがえります。

小学校社会科副読本「わたしたちのきょうど 星ふるまち 下松」

小学校で使われている社会科副読本をデジタル化しました。

デジタルアーカイブに掲載されている資料の一部を紹介します。

次ページへ

1.古墳からの出土品を見る

(1)下松市で発見された銅鏡^{どうきよう}

みやのすこふん 宮ノ洲古墳

宮ノ洲古墳は、笠戸湾に突き出している砂洲^{さすきず}に築かれていました。一帯は工場用地となり、古墳はすでに消滅^{しょうめつ}しているため、大きさや形などは不明です。1802(享和2)年に、宮ノ洲屋幸吉^{みやのすやこうきち}が、土地開墾^{かいこん}中に古墳を発見^{はっけん}し、石室^{せきしつ}から銅鏡や鉄器類^{てつしつど}が出土したと伝えられています。発見された銅鏡は4面あり、三角縁盤龍鏡および三角縁神獸鏡2面は中国製、内行花文鏡は日本製とされています。古墳の被葬者^{ひそうしゃ}は、貴重な中国製の銅鏡を3面も持っていたことから、瀬戸内海の海上交通に深く関わり、畿内^{きない}の勢力と密接な関係を持った有力な豪族^{こうぞく}と考えられています。

さんかくぶちばんりゅうきよう 三角縁盤龍鏡

径 24.4cm

東京国立博物館 所蔵
国指定重要文化財

出典: ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)



さんかくぶちしんじゅうきょう
三角縁神獣鏡

径 23.5cm
東京国立博物館 所蔵
国指定重要文化財

同じ鑄型を使って作られた鏡に
沖ノ島18号遺跡出土鏡
伝三重県桑名市出土鏡がある。

出典：ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)



さんかくぶちしんじゅうきょう
三角縁神獣鏡

径 22.1cm
東京国立博物館 所蔵
国指定重要文化財

出典：ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)

ないこうかもんきょう
内行花文鏡

径 11.4cm
東京国立博物館 所蔵
国指定重要文化財

出典：ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)



(2) 古墳からの出土品大集合！



下松市には多数の古墳^{こふん}があることを知っていますか？
ここではその古墳からの出土品の一部を紹介します！

★ ★ つねもりこふんぐん 常森古墳群

場所：大字生野屋常森

はそう



あしつき 脚付はそう



★ ★ ★ ★ グラス型土器^{がたどき}



★ ★ そうがきこふん 惣ヶ迫古墳

場所：大字生野屋字惣ヶ迫

いえがたはにわ 家形埴輪



えんとうはにわ 円筒埴輪



よこべ 横瓶



そうしんぐ ぎよくるい 装身具・玉類



ひろくちつぽ 広口壺



市内の遺跡や古墳の場所は、
デジタルアーカイブの
くだまつしいせきちず
「下松市遺跡地図」で
確かめることができます。



みやばら ごうふん
宮原2号墳

場所: 大字末武中字上和田

うまがたはに わ
馬形埴輪



こうじんやませっかんぐん
荒神山石棺群

場所: 大字末武中貸山

そうしんぐ ぎよくるい
装身具・玉類



ためひろこふんぐん
為弘古墳群

場所: 大字生野屋字白迫



ちようけい こ
長頸壺



ゆうがいたかつき
有蓋高杯



つき み
杯身



てつぞく
鉄鍬



じかん
耳環



ていへい
埴瓶



出土品のうち、家形埴輪・馬形埴輪は「地域交流センター」、
その他は「島の学び舎」で見ることができます。
ぜひ、足を運んでみてください。



2. 絵図からまちを見る

昔の下松の風景や、当時の人々の生活、^{しんこう}信仰、働く様子などを描いた絵図や絵馬からは、^{せんじんたち}先人達の暮らしぶりが読み取れます。デジタルアーカイブで、じっくり見てください。

【^{え ま}絵馬(^{ご じんこう え ま}御神幸絵馬)】 ^{たて}縦183cm×^{よこ}横384cm (^{はなおかはちまんぐうぞう}花岡八幡宮蔵)



市指定有形民俗文化財

1797(寛政 9)年、徳山藩の絵師、^{あさくらなんりょう}朝倉南陵作
現在の絵馬は、1923(大正 12)年に復元されたもの。寛政期の花岡八幡宮例祭における御神幸の様子が描かれています。

【^{けんぼんたんさいみょうけんしゃさんけいず}絹本淡彩妙見社参詣図】 (^{みょうけんぐうじゅとう じ ぞう}妙見宮鷺頭寺蔵)



市指定有形文化財

1808(文化 5)年、^{ほうげんしんきょう}法眼信喬作
江戸後期の鷺頭山妙見社の様子と参詣人が描かれています。

【^{けんぼんちよしよく らんかいけん ず}絹本著色 覧海軒図】 ^{ひょうそう}縦 153cm×横 106.5cm:表装含む (山口県立山口博物館蔵)



徳山藩3代藩主^{もうりもとつぐ}毛利元次から命名された磯部家別邸「覧海軒」と、^{かいひん}海浜で働く人々の様子が描かれています。

【1938(昭和 13)年頃の下松^{ちようかん ず}鳥瞰図】 ^{だいくだまつたいかん しよしゅう}縦 25.5cm×横 34cm (『大下松大観』所収)



^{しせいしこう}市制施行の前年に出版された『大下松大観』に収められている当時の下松鳥瞰図で、下松町及び末武南村が描かれています。

(1) 江戸時代の花岡の町並みを見てみよう

江戸時代に旧山陽道の門前宿場町として栄えた花岡には、国指定重要文化財の関伽井坊多宝塔や、花岡八幡宮に寄進された奉納品など、歴史を物語る貴重な文化財が現在も数多く残っています。江戸時代の花岡は都濃宰判(宰判は、萩藩の行政区分)の政治の中心地で、勘場、高札場、御番所などが置かれ、大名が宿泊や休憩をする御茶屋もありました。そこに現在そびえる榎柏は、江戸時代からずっと人々の暮らしを見守ってきました。花岡八幡宮に奉納された絵馬には、寛政期の花岡八幡宮例祭における御神幸の様子詳しく描かれており、山陽道の町並みや、例祭の奉納諸行事・演芸、人々の生活、氏神信仰に対する考え方などがわかる貴重な史料です。

デジタルアーカイブで、花岡八幡宮の絵馬を見てみよう!

画像を拡大できるので、細かいところまではっきり見えるよ。
絵馬に描かれているものを見つけてみよう。今も残っているものもあるし、もうなくなってしまったものもあるね。次の写真はヒントだよ。



しんぱく
榎柏



おちゃや かんばあと
御茶屋・勘場跡



ほうしやうじ
法静寺



はなおかはちまんぐうはいでんまゑと りい こまいぬ
花岡八幡宮拝殿前鳥居・狛犬



はなおかはちまんぐうはいでん
花岡八幡宮拝殿



たほうとう
多宝塔



はなおかはちまんぐうさんどうとりい
花岡八幡宮参道鳥居



さんどうとりいまえこまいぬ
参道鳥居前狛犬



じょうやとう
常夜燈



みこしだい
神輿台



おたびでん
御旅殿



たいこばし
太鼓橋



じそういんいしだん
(右手)地蔵院石段



あかいほう
関伽井坊



あかい
赤井

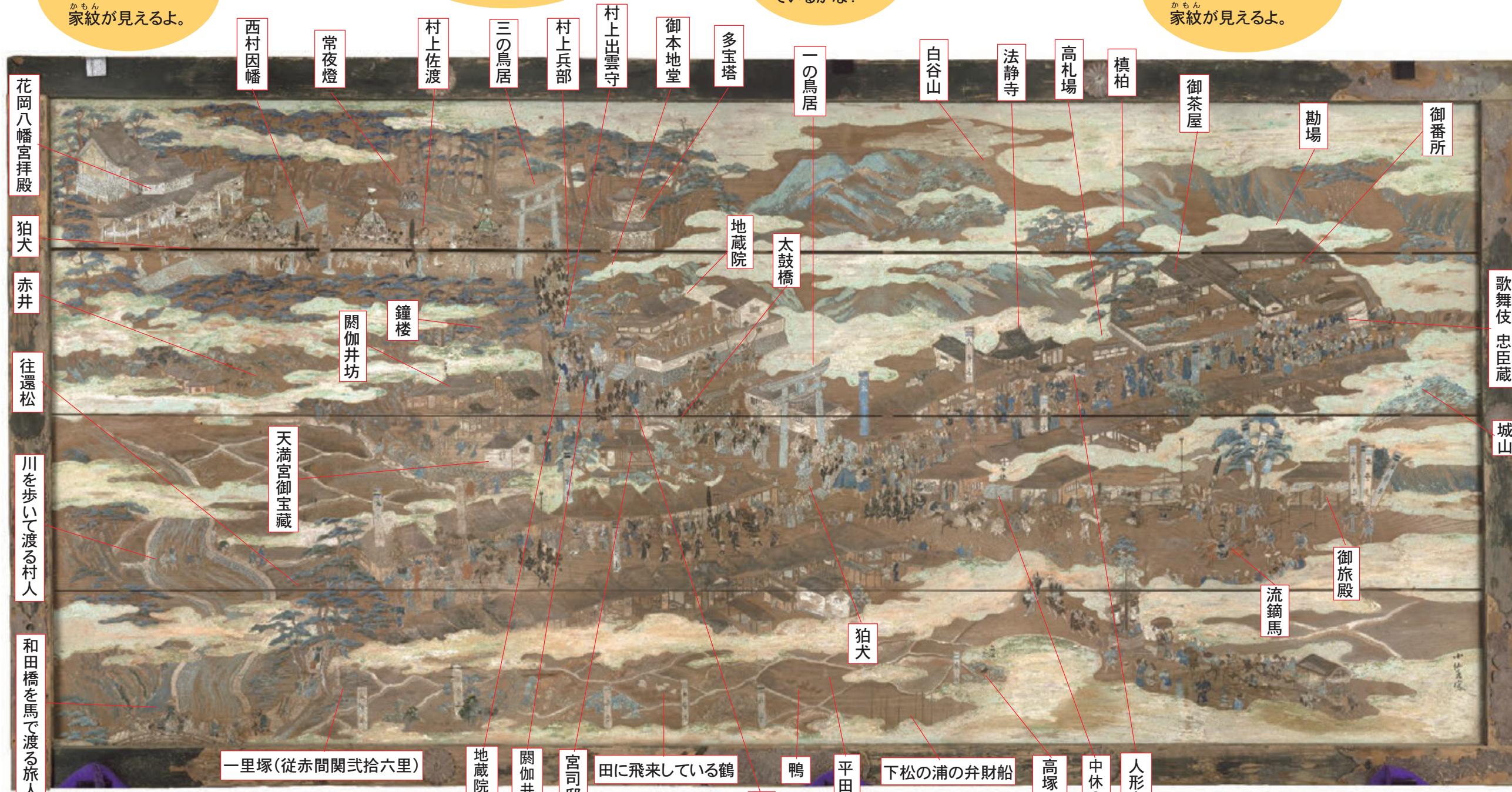
え ま ご じ ん こ う え ま は な お か は ち ま ん ぐ う ぞ う
 【絵馬(御神幸絵馬)】 (花岡八幡宮蔵)

はいでん ちやうちん まく
 拝殿の提灯や幕、
 みこし もうりけ
 神輿には毛利家の
 かもん
 家紋が見えるよ。

花岡八幡宮の例祭は、と
 ても賑わっているね。人々
 の顔の表情も見てみよう。

じぞういん
 地蔵院のところ
 は、今はどうなっ
 ているかな？

おちやや
 御茶屋の門に付けられ
 ちやうちん もうりけ
 た提灯には、毛利家の
 かもん
 家紋が見えるよ。



花岡八幡宮拝殿

狛犬

赤井

往還松

川を歩いて渡る村人

和田橋を馬で渡る旅人

西村因幡

常夜燈

村上佐渡

三の鳥居

村上兵部

村上出雲守

御本地堂

多宝塔

一の鳥居

白谷山

法静寺

高札場

榎柏

御茶屋

勘場

御番所

歌舞伎 忠臣蔵

城山

地蔵院

太鼓橋

関伽井坊

鐘楼

天満宮御宝藏

御旅殿

流鏝馬

狛犬

一里塚(従赤間関貳拾六里)

地蔵院(僧)

関伽井坊(僧)

宮司邸宅

田に飛来している鶴

鴨

正福寺(僧)

神光院(僧)

分国寺(僧)

平田

下松の浦の弁財船

高塚 人丸社

中休・神輿台三基

人形浄瑠璃

この川の
 名前は？

あかまがせき
 赤間関(下関)
 より26里って、
 何kmぐらい？

平田にも鶴が飛ん
 できていたんだね。

さんようどうぞ
 山陽道沿いの家の
 まど
 間取りを見てみよう。
 がぞう
 画像を広げると、家
 の中まで見えるよ。

やぶさめ にんぎょうじょうりり かぶき
 流鏝馬、人形浄瑠璃、歌舞伎など
 もあって人々は楽しそうだね。

(2) 江戸時代の^{わしずやま}鷺頭山の様子を見てみよう

鷺頭山は室町時代、^{さいごくいち}西国一の大名・^{おおうち}大内氏が厚く信仰した^{みょうけんしんこう}妙見信仰の^{せいち}聖地で、江戸時代には、^{もうり}毛利氏に保護されました。

^{けんぽんたんさいみょうけんしゃさんけいず}絹本淡彩妙見社参詣図には、^{わかみずのえき}和歌水浴、最初に妙見社が置かれたと伝わる^{かつらぎやま}桂木山、^{かなえ}鼎松、^{まつ}豊井の由来となったという^{あかい}關伽井などとともに江戸後期の妙見社の様子が描かれています。また、寺社一体となった^{しんぶつしゅうごう}神仏習合の^{みょうけんしんこう}妙見信仰の様子もわかります。



デジタルアーカイブで、絹本淡彩妙見社参詣図を見てみよう！

画像を拡大できるので、細かいところまではっきり見えるよ。
参詣図に描かれているものを見つけてみよう。今も残っているものもあるし、もうなくなってしまったものもあるね。次の写真はヒントだよ。



^{みこしだい}
神輿台



^{みょうけんばし}
妙見橋



^{いち とりい}
一の鳥居



^{いち とりい まえこまいぬ}
一の鳥居前狛犬



わかみやしゃでん
若宮社殿に続く石段



わかみやしゃでん
若宮社殿



ちゅうぐうずいしんもん きゅうにおうもん
中宮隋神門(旧仁王門)



ちゅうぐうさんどう
中宮参道



ちゅうぐうはいでん
中宮拝殿

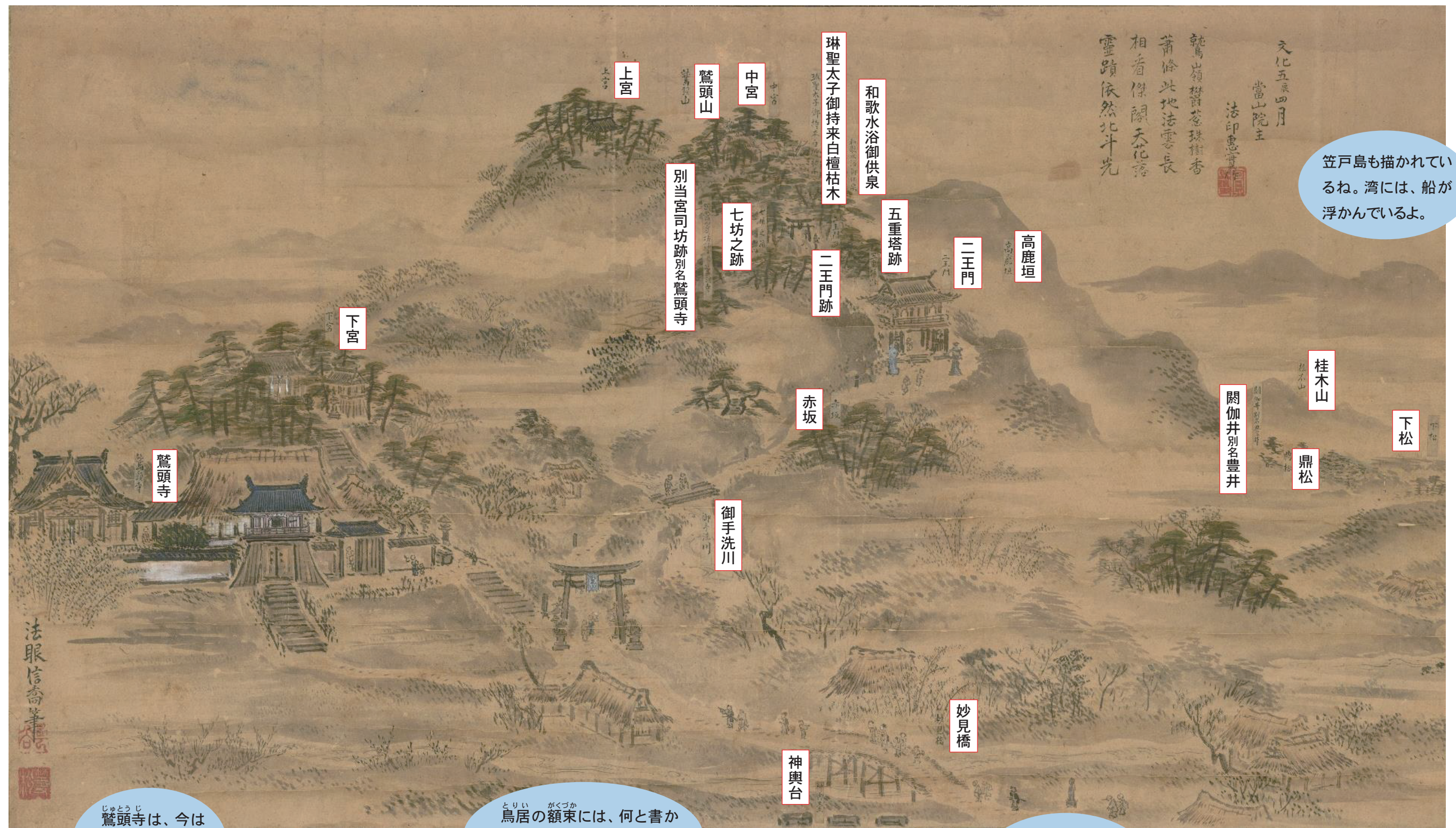


じょうぐう
上宮



若宮から上宮・中宮を臨む

けんぽんたんさいみょうけんしゃさんけいず
【絹本淡彩妙見社参詣図】
 みょうけんぐうじゅうとう じ ぞう
 (妙見宮鷺頭寺蔵)



笠戸島も描かれているね。湾には、船が浮かんでいるよ。

鷺頭寺は、今はどこにあるのかな？

鳥居の額束には、何と書かれているのかな？
 狛犬は、今もあるのかな？

当時も、人々は妙見橋を渡ってお参りしていたんだね。

(3) 江戸時代の宮ノ洲の様子を見てみよう

宮ノ洲は、瀬戸内海に向かって砂州が伸びた一帯で、対岸には笠戸島が位置しています。
笠戸島と大島半島に抱かれた穏やかな海は、古代から海上交通における重要な港とされ、
下松は、海を背景に様々な歴史を刻んできました。

現在、宮ノ洲周辺は、ものづくりのまちを支える工場地となっていますが、江戸中期には、
大規模な塩田開発が行われ、下松は塩業で栄えていました。塩田開発と経営を手掛けた
宮洲屋は、当時、全国長者番付に周防(現在の山口県東部)から唯一載った豪商でした。
宮洲屋は 1709(宝永6)年、塩田の西の浜に、高石垣の上を白壁の練堀で囲み、海を眺めら
れる二階家を構えた別邸を建築。風格ある屋敷は、徳山藩主から「覧海軒」と命名され、歴
代の藩主も訪れたほか、諸国を旅した備中(現在の岡山県西部)の地理学者も「小なる城
を見るがごとし」と記しています。「覧海軒図」に、当時の様子が描かれています。

【宮洲塩田図】

縦 187cm×横 143cm
(山口県立山口博物館蔵)

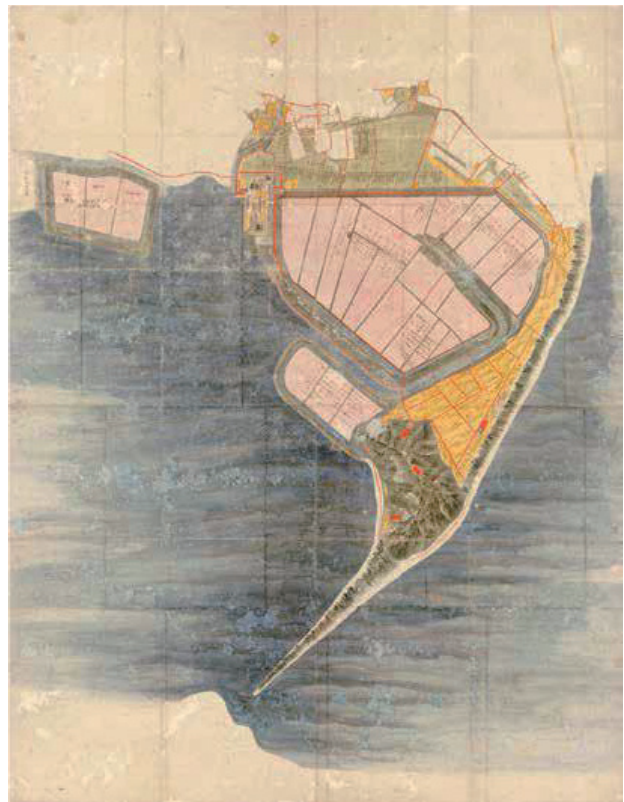
成立年代は不明だが、1805(文化2)年

以降をあまり下らない時期の成立か。

磯部家が所有する塩田、田、畠の各
区画ごとの面積、石高を示したもので、

磯部家の私的な絵図。塩田は薄桃色、
田は渋い草色、畠は黄色、水面は青色、

神社仏閣は朱色、道路は赤色など、そ
れぞれ表示分けされています。





1917(大正6)年頃の宮ノ洲 当時は塩田が広がっていた (個人蔵)



^{らんかいけんず}
デジタルアーカイブで、**覧海軒図**を見てみよう!

画像を拡大できるので、細かいところまではっきり見えるよ。
江戸時代の宮洲塩田や塩づくりの様子を見てみよう。今も残っている
ものもあるし、移転したものもあるね。次の写真はヒントだよ。



とうようこうはんこうない
東洋鋼鉄構内の松



べんざいてん
弁財天社



かさどわん
笠戸湾

けんぽんちょしょく らんかいけん ず
【絹本著色 覧海軒図】（山口県立山口博物館蔵）



(4) 下松市が誕生する頃のまちを見てみよう

1939(昭和14)年11月3日、下松町と末武南村、花岡村、久保村の一町三村が合併して、下松市が誕生しました。市制施行に先立ち、1939(昭和14)年5月18日に出された「市制施行具申書」には、次のような記述があります。

- 一、下松町・久保村・末武南村・花岡村を廃し、その区域をもって下松市を置く。
- 二、下松町の所有する財産は、その全部を下松市に帰属させる。
- 三、下松町廃止前の権利義務は、すべて下松市に継承させる。
- 四、市名は、下松(クダマツ)市とする。
- 五、市役所の位置は、末武南字尾尻附近とする。
- 六、旧町村中の大字名は、そのまま存置する。
- 七、市制施行の期日は、昭和14年11月3日とする。

市制施行の背景には、下松地区に工業都市としての勢いが見られるようになったことや、下松町の著しい人口増加を中心として、これを取り囲む末武南村、花岡村、久保村との広域的なつながりが強くなったことが挙げられます。

1936(昭和11)年6月、政府は、下松地域の工業的な発展の見通しを得たため、都市計画法第2条第2項の特例をもって、下松町・末武南村・花岡村の三カ町村を都市計画区域に指定しています。

1938(昭和13)年に発行された『大下松大観』には、当時の下松町と末武南村の一部を描いた絵図が収められています。また、久原房之助が発表した「下松大工業都市建設計画」に協力した地元の関係者矢島専平が、1939(昭和14)年10月に発行した手記『秋の夜話』からも、下松市が誕生する頃のまちの様子がよくわかります。

☆1938(昭和 13)年頃の絵図と今のまちを比べてみよう ☆

下松タウンセンターの
ところには、当時は
何があったのかな？

今もある施設、
もうなくなった施設、
わかるかな？

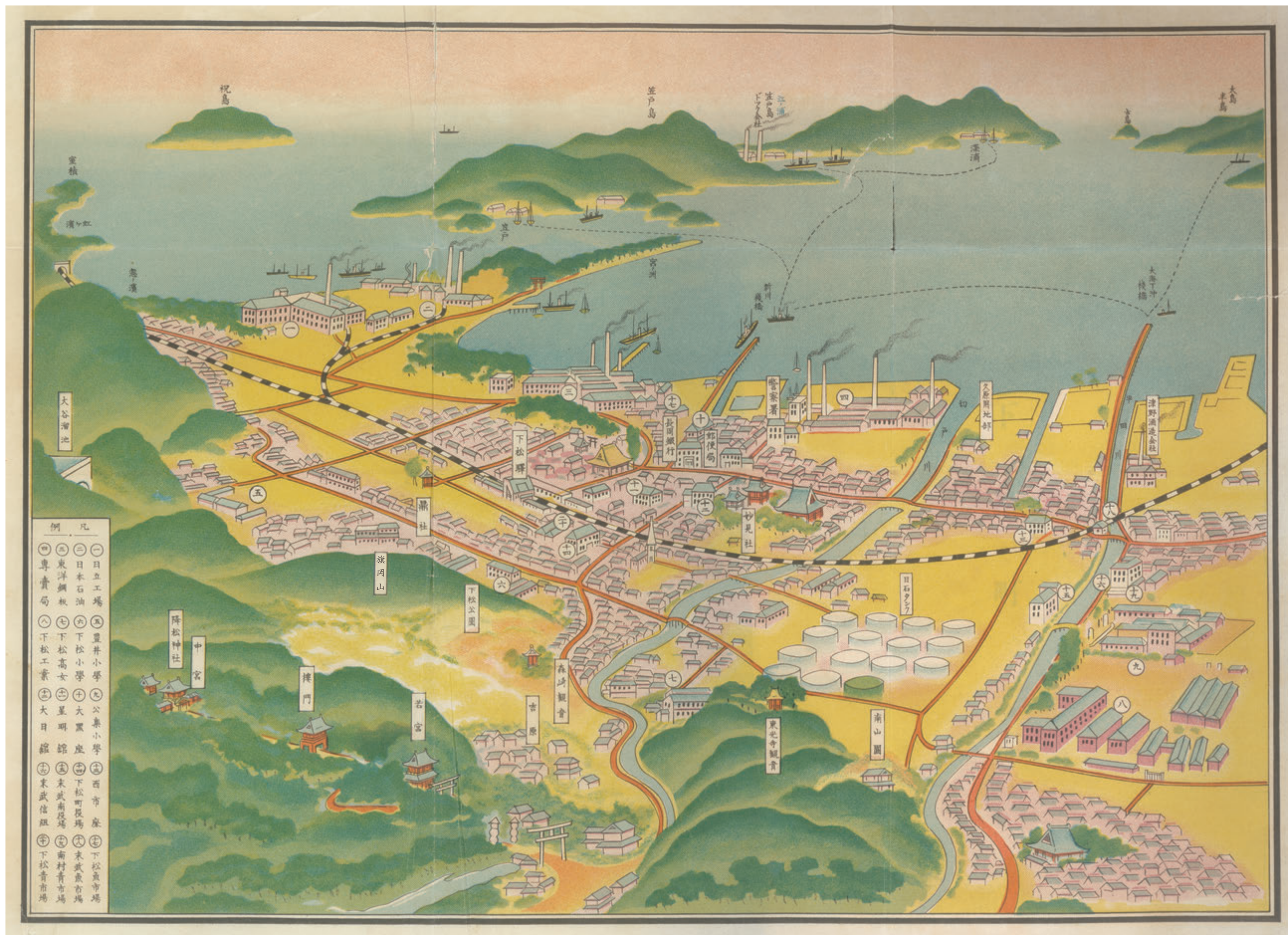
笠戸大橋が架かっ
ているところはどこ
かな？

笠戸大橋が架か
るまでは、どうやっ
て島と行き来をし
ていたのかな？

当時すでに工場があ
るよ。どんな工場が
あったのかな？それ
は、今もあるのかな？



ちょうかんず だいくだまつたいかん しょうしゅう
 【1938(昭和13)年頃の下松鳥瞰図】 (『大下松大観』所収)



3. 写真からまちを見る

(1) 下松の今・昔を知りたいときは

昔の下松って…

おじいちゃんおばあちゃんが
わか ころ
若い頃の下松を知りたい!

います ちいき
今住んでいる地域、昔は
どんな場所だったの?

つた まつ
下松に昔から伝わるお祭りや
でんとうげいのう
伝統芸能ってあるの?



そんなときこそ
「デジタルアーカイブ」の
しやしん かつよう
写真を活用しよう!!



さあ、デジタルアーカイブで
写真を探してみよう！



この通り、どこかわかるかな？
写真の中にヒントがあるよ。



なに^なも^もは^はし^し走っているね
どこを走っているのかな？



ここはどこかな？
牛^{うし}がたくさんいるよ！
何が行われているのかな？

(2) 知りたいこと・調べたいことなんでもトークしてみよう

「^{きりやま か ぶ き}切山歌舞伎」を知っていますか？

^{きげん え ど じ だ い さかのぼ}起源は江戸時代まで 遡ります。

^{やまぐちけんしえいむけいみんぞくふんかざい}山口県指定無形民俗文化財なんだよ。



^{ぶたい}何の舞台かな？



^と停まっているのは…



^{しょうわ ねんだい にちじょうせいかつ}昭和30年代には、まだ日常生活の中に

^{じょうきかんしゃ}蒸気機関車があったんだね。

^{えき まわ か}駅の周りはどう変わっているかな？



^{ひび}白々のくらし

^{いま むかし}今と昔のまちの様子を比べてみよう。

ここはどこかな？

^{おうだん ほう どう わた しんこうき}横断歩道を渡っているね。信号機はあるかな？

^{くるま はし}車は走っているかな？



^{ばしよ たてもの}あの場所、あの建物



みんなが知っている施設や場所も、
今と昔では変わってしまったところ
がたくさん！

ここは、何の施設かな？



(3)写真で見る昭和 30 年代の下松

べいせん こ 米泉湖

げんざい べいせん こ すえたけがわ ばしよ
現在の米泉湖(末武川ダム)の場所には、
しらくも たき
白雲の滝とよばれた滝があった。



今の下松と、
昔の下松をくらべてみよう。

はなおかはちまんぐう 花岡八幡宮

けいだい いしだたみ さんどう ふうけい
境内へとつづく石畳の参道の風景は、
いま か
今も変わらない。



1959(昭和 34)年の花岡八幡宮式年例祭
しきねんれいさい
は、応神天皇1650年式年祭として行われ
おうじんてんのう
た。旧山陽道はとても賑わっている。
きゅうさんようどう にぎ



おおのみちょうばし ふ きん
大海町橋 付近

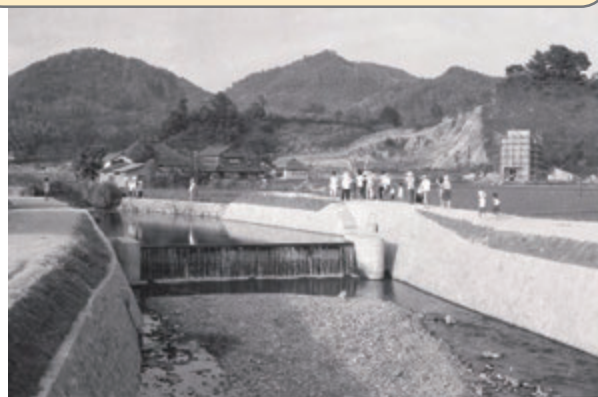


ひらたがわ
平田川

昔は、^{ひらたがわ}平田川でも^{しおひ}潮干狩りが楽しめた。



^{ひらたがわ}平田川沿いを北に進む^{すす}御田頭祭のみこし。



^{あおきばし}青木橋を渡る^{わた}御田頭祭のみこし。
^{みぎぜんぼうたかだい}右前方高台に^{てんのうだい}天王台アパートが見える。

えきみなみ
駅 南

よ いち 夜市でにぎわう元町商店街。
もとまちしょうてんがい



さかえまちふみきり
栄町踏切

ふみきりほんがかり
踏切保安係が
じょうちゅう
常駐していた。



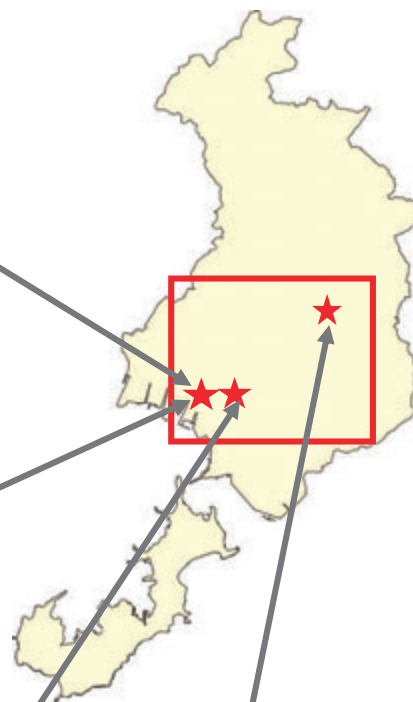
みょうけんおおはし
妙見大橋

1953(昭和 28)年に落成した妙見大橋。
このころ、橋の下付近には中央青果市場が
あった。



く ぼ きりやま
久保・切山

1956(昭和 31)年の切山八幡宮鎮座
1250年大祭の様子。



かさど おおはし
笠戸大橋

かさど じま ほんど はし かさど おおはし
笠戸島と本土をつなぐ橋(笠戸大橋)は
1970(昭和 45)年に完成した。
はし か こうつうしゅだん
橋が架かる前、人々の交通手段は
じゅんこうせん わた ぶね
巡航船や渡し船だった。



わた ぶね
渡し船



じゅんこうせん
巡航船



しらはまかいがん
白浜海岸

昔は多くの人が海水浴に訪れていた
しらはまかいがん
白浜海岸。



〈参考文献〉

- ☆『下松市史』 下松市 1989
- ☆『下松市の石造文化財・祈りと生活』 下松市教育委員会 1981
- ☆『下松市の文化財』 下松市教育委員会 1986
- ☆『大下松大観』 下瀬松雪 1938
- ☆『下松市内歴史民俗資料所在調査事業調査報告書(概要版)』 下松市教育委員会 2011
- ☆新収蔵資料紹介 『旧豊井村磯部家資料』 小山良昌 1991
- ・『山口県の古代遺跡 2 古墳編』 古代遺跡教材化研究会 1996
- ・『山口県史 資料編 考古1』 山口県 2000
- ・『考古資料大観 5 鏡』 小学館 2002
- ・下松地方史研究第56号「奉納物から見た江戸中後期の花岡町」 喜多修 2020
- ・下松地方史研究第57号「花岡八幡宮御神幸絵馬から見た江戸中後期の花岡町」 喜多修 2021
- ・『復刻版 秋の夜話』 下松市 2019(※)
- 「下松で古地図さんぽ 商業と塩田で栄えた下松を歩こう編」 下松市立図書館 2020
- 「下松で古地図さんぽ 鷺頭山と下松藩の歴史を歩こう編」 下松市立図書館 2020
- 「日本の歴史から見るくだまつ」 下松市立図書館 2021
- ・ColBase(<https://colbase.nich.go.jp/>)
 - 三角縁盤竜鏡
 - 三角縁二神二獣鏡
 - 三角縁同向式神獣鏡
 - 内行花文鏡

☆…これらの図書は、「下松市郷土資料・文化遺産のデジタルアーカイブ」でもご覧いただけます。

●…リーフレットは、下松市立図書館や各公民館等で配布しています(無料)。

※『復刻版 秋の夜話』は、下松市立図書館にて販売しています(1冊450円)。





この冊子は、（一財）地域活性化センター「令和3年度地方創生に向けて
“がんばる地域”“応援事業”の助成金を受けて作成しています